

## 第14回農薬科学シンポジウムを顧みて

誌名	日本農薬学会誌
ISSN	03851559
著者	松中, 昭一
巻/号	7巻2号
掲載ページ	p. 265-267
発行年月	1982年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



## シンポジウム

## 第14回農薬科学シンポジウムを顧みて

昭和56年11月12日

於 神戸市兵庫農薬会館

共催 日本学術会議植物防疫研究連絡委員会

日本農芸化学会・日本植物病理学会

日本応用動物昆虫学会・日本雑草学会

植物化学調節研究会・日本農薬学会

第14回農薬科学シンポジウムは、「農薬をめぐる国際的諸問題」のテーマで昨秋11月12日、神戸において開催された。第13回を沖縄で開催していただいたときに、正式に次回は神戸ということでお引き受けしたわけであるが、準備はまずはテーマ選びからはじまった。大げさな準備委員会や実行委員会は構成せず、研究室内部だけで企画運営も進めていくことにし、ただ前日開催の農薬残留分析研究会との関係で兵庫県農試の関係者とは連絡を密にするという方針をとった。この方式であると広く地元の意見をきくということではできないし、当事者の負担は大きい、会合費等の経費を節約できる以外に速断速決で事が進むという利点もみられる。

さて、テーマであるが、現在わが国の農薬（事情あるいは企業）のおかれている立場は、輸入依存の時代から生長して、むしろ内需が輸出から影響を受ける家電・自動車・カメラ・時計・化学肥料等々の産業と類似してきているといえるし、明くる年（1982年）には京都で国際農薬化学会議も開催され、またシンポジウムの開催地が国際都市・神戸であることも考えあわせて、「農薬をめぐる国際的諸問題」を選定した。その具体的内容、すなわち、どなたに何を講演していただくかを定める段階になってかなりの苦勞ができた。まずは海外の農薬に対する要求度を、大きな地域別に概説しその市場状況を明らかにしていただくと考えて人選を進めたが、こういった情報は、各企業が相当にお金をかけてそして汗を流して集められたもので、そうたやすくは出していただけるものではない。また、海外の農薬関係統計資料の不完全さもそのような話題提供をむずかしくしたといえよう。

幾人かの方々のご意見をおききした上で、海外の農薬

事情については、後述するように無理矢理4人の演者の方々に演題をお願いした。これに海外技術協力関係についてその道のベテラン梶原敏宏熱研部長のお話を加えることとした。この5本ではあまりにも農薬偏重すぎる。このシンポジウムの特長のひとつは幅広く知識を集めることであるので、もうすこし生物や作物めいたことをと考えて、地元の先生方を生かし、「国内では栽培されないが海外では重要な作物」についてのお話をさせていただくことにした。神戸大学農学部には熱帯有用植物学講座というユニークな講座があるが、この講座の前教授である佐藤 孝名誉教授に「熱帯の永年生作物」をまとめて解説していただくことでご快諾を得た。あと私達があまり知らない作物としての「ワタ」、そして「油脂作物」を考えてみた。後者については、食料油関係者をお願いしてみたが空振りに終わり、前者については農薬を使ったりする近代的栽培については適当な方がおられないだろうと考え、神戸大学で特用作物の講義をしておられる西川欣一助教授に勉強と思って資料を集めてやって下さいと頼みこんだ次第である。

かくて、出来上がったプログラムは次のようになった。

- (1) 海外農薬事情  
福田秀夫（全農）
- (2) 海外農薬市場の特徴  
杉本良雄（ライフサイエンス通信）
- (3) 海外における農薬利用の技術的一断面  
宮本純之（住友化学）
- (4) 海外における農薬研究  
山本 出（東京農大）
- (5) 作物保護の海外技術協力

梶原敏宏 (農技研)\*

(6) 国内では栽培されないが海外では重要な作物

(その1) ワタの生育特性と栽培

西川欣一 (神戸大)

(その2) 熱帯の永年作物

佐藤 孝 (神戸大名誉教授・国際農林業協力協会)

開催日時については、神戸市では「ポートピア '81」の開催年であり、この大きな催しとの関係をどうするかが大問題であった。この催しも事前にはあまり人気なかったものでその会期中にやって両方をかねていただく案も出たが、宿舍の確保や町の落着きのことなど考えて、「ポートピア '81」の期間はさけることとした。結果的には「ポートピア '81」はご存知のような大盛況で、その会期中にシンポジウムをやっていたら、神戸での宿泊はほとんど不可能に近かったものと思われる。

会場については、いろいろと事前調査を行なったが、交通の便、大きさ、設備、費用の点から兵庫県農業会館を選定した。これは、兵庫県農試のお世話によるものであるが、兵庫県経済連のご配慮で格安の借料で借用できて、経費節約上大いに助かったことを付記しておきたい。

さて、当日の参加者数の予測は、懇親会のそれとあわせて主催者の頭をいつもなやますものである。なんらかの会合を平均年1回ぐらいは主催している筆者であるが、今度の予測は非常にむずかしいものであった。事務手続を簡便化するため申込みは郵便振替でやっていたことにしたが、その振込みや問合せの状況から判断して150名の参加者があれば上々とふんでいた。これは、テーマが農業企業対象的であり、企業では代表の聴講者を送り、この代表が帰ってから報告する形をとるケースが多いと判断したからである。したがって、講演要旨集も300部足らずを用意して当日に臨んだ。

さて、蓋をあけてみると大へんなこととなった。当日申込みが続々と現われ、遂には講演要旨集は品切れとなる始末。幸い会場は広めの大ホールをとってあったので助かったが、このほうも折畳み椅子を運びこんでの大あわて。嬉しい悲鳴とはまさにこのことである。あとで調べた結果、参加者は、一般254名、招待(講師を含む)13名、学生42名、合計309名に達した。第12回(松山)の268名、第13回(那覇)の237名を上回る結果となってしまった。このため、一部の方々には講演要旨集なしで講演をきいていただく破目となり、大へんど不便な思いをさせ、心よりお詫びを申し上げる。(別途要旨集

を注文される方もかなりあり、再印刷したが、このための経費がかなり支出されることになった)。

シンポジウムそのものは、午前中を京都大学・藤田稔夫教授、午後を理化学研究所・見里朝正主任研究員(前会長)および筆者が座長となって進行され、演者はペテラン揃いとあって、内容は豊富でわかりやすい話し方、普段断片的な知識で入ってくるものがまとまった形で整理・総括されており、非常に熱の入ったものとなった。農業や植物防疫の専門家でない西川・佐藤両講師のお話の際も席を立つ人は少なく、わざわざ六甲台の小園場に「ワタ」の各品種を比較栽培された西川助教授、インドネシアを中心に生涯を熱帯有用作物の調査・研究にかけられ数多くのスライドを駆使された佐藤名誉教授の両講師の説明に最後まできき入っていた点が印象的であった。

たった1日の会合ではあったが、熱心な講師の先生方のお話やフロアの方々の討議によって参加者一同、従来の知識の整理や新しい知見の導入を通じて「農業の国際的諸問題」に関する情報量を増大できたものと思われる。

夜に入って、同じ会場で懇親会に入ったが、合計149名の参加を得て、にぎやかに友好の輪を駆け親睦の実を挙げたと思われる。終わって、神戸は三宮・元町の赤い灯・青い灯に楽しい思い出を残した方々も多かったと想像している。

シンポジウムを無事終わるにあたり、共催各機関とくに経済的援助をいただいた日本農芸化学会および日本農業学会にあつく感謝の意を表すものである。また、ご多忙中にもかかわらず長文の講演要旨のご執筆や長時間のご講演をいただいた7名の講師の先生方ならびに進行を通じて会を盛り上げていただいた座長の方々にも心からお礼を申し上げる。また、会場をうめつくし、シンポジウムを熱気あふるものとしてくださった参加者の皆さんにもあつくお礼を申し上げたい。さらに、会場借用にあたりご便宜をはかっていただいた兵庫県経済連および兵庫県農試の関係者の方々にも深く感謝の意を表したい。最後に、会計・庶務・会場運営等にご協力を惜しまれなかった研究室の皆さんに紙上をかりて心からお礼を申し上げる。

筆者の報告がいささか遅れたため、この記事は7巻2号に掲載となる予定であるが、その怪我の功名で、次回第15回の農業科学シンポジウムの予告ができることになった。第15回は、大阪府立大学農学部・上田博夫教授のお世話で、昭和57年11月12日(金)大阪市にある大阪科学技術センターにおいて開催されることとなった。詳

\* シンポジウム寸前に熱帯農業研究センターより農業技術研究所病理科長に転出された。

細なプログラムは追って報告されるが、今夏の第5回国際農薬化学会議とこれからの農薬について中島 稔先生のお話のほか、植物ウイルスの概論・診断、抗ウイルス薬剤の現状と開発、分子不斉と農薬の構造活性相関(2題)、最近の興味ある研究・開発等が仮の案として考え

られているとおききしている。私達のポテンシャルを維持し、高揚するために今秋も多数の方々が大阪へ参加されて、このシンポジウムを実り多いものとされんことを希求して筆をおくことにする。

(神戸大学農学部 松中 昭一)